

検索キーワード

大晦日

トゥシヌユル

歳神

来訪神



きいむんの

どろ～ちゃいむにいへ

- 第9回 - テーマ 大晦日の夜

ハイサイ&ハイタイ、みなさん！

12月に入りました。今年も残りわずかとなりましたね。今回は「大晦日」についてお話してみたいと思います。「大晦日」は一年のしめくくりの日であり、各家の大掃除や正月の飾り付け、挨拶回りなどで大忙しの日です。

そんな大晦日の日ですが、各地によって諸儀礼や食べるものもかわるようです。まず沖縄では昔から旧暦の大晦日「トゥシヌユル」には、各家で飼っている豚をつぶしてソーキ（豚のあばら骨）やテレビチ（豚の足）のおつゆ、大根なますなどの料理をつくって供え、そして家族で食しました。鋤、へう、鎌などの農具にウブクとよばれる碗に盛ったご飯を供えたり、小さな握り飯をつくって家屋内数カ所に置き、ねずみに年越しをさせる地域もあったそうです。又、大晦日の夜に寝ると縁起が良くないとされ、夜通し起きるといふ言い伝えが残る地域もあります。

各地の「来訪者」

日本には古くから、歳神（としがみ）の言い伝えがあります。歳神さまは正月に家々に迎えて祭る神で豊作の守り神であり、祖霊であるともいわれます。人々に富や幸せをもたらす非常に重要な神さまであるといえます。大晦日の夜の「来訪者」は、姿を変えて日本各地に見られます。

一番有名なお話は「かさこ地蔵」でしょう。ある貧しい老夫婦が、大晦日に道中で目にした雪の積もったお地蔵さまを不憫に思い、売れ残りの笠と手ぬぐいを被せてあげました。その夜、老夫婦が寝ていると家の外で物音がするので外に出てみると、家の前に様々な食料や小判などが山と積まれていました。あのお地蔵さまからの贈り物でした。おかげで老夫婦は良い新年を迎えることができたといいます。

鹿児島県徳之島に伝わる、大晦日の夜に盲目の訪問者を家に泊めるお話「金塊になったダットウ」、人間の言葉を喋る亀に砂浜で出会う「ものいう亀」は、突然やって来て人間に富をもたらす「大晦日の客」です。

恐ろしい姿をした異形の神が人間を脅して教訓を与えて廻る風習もあります。その例として秋田県の「なまはげ」はとても有名ですが、似たものでは鹿児島県の「トシドン」もあります。

こういった風習や言い伝えを改めて見てみると、自分の育った土地や現在住んでいる地域において本来、大晦日をどう過ごして来たのか、どのような言い伝えがあるのか気になりますね。琉大附属図書館の沖縄文献情報データベース（BIDOM）を使って調べたり、蔵書検索システム（OPAC）を使って各地域史編纂室の発行した地誌を紐といてみてはどうでしょうか。（沖縄資料担当：H）

《参考文献》

- 沖縄大百科事典 / 沖縄タイムス社
- 南風原村史
- 「潮風」61号 2003年1月

- 那覇市史 那覇の民俗 / 那覇市企画部市史編集室
- 喜如嘉誌 / 喜如嘉誌編集委員会編集